

読んでくれるって
言ったじゃない



作・絵 田部 智子

赤ちゃんって、ほんとたいへん。

あたし何も知らなかったから、

「もうすぐ、かわいいおとうとが生まれるんだよー。いいでしょ」

なんて友だちにじまんしたりしてさ。いま考えると、バツカミたい。

その日、ようちえんバスをおりたら、おばあちゃんがむかえに来てた。

「生まれそうなの！ びょういんへ行くわよっ」

おばあちゃんは、あたしの手をぎゅゅっとにぎって、せかせかとひっぱる。

「えー、ママはまだまだって言ってたもん」

「あたしもきゅうによび出されてびっくりよ。どうやらせつかちな赤ちゃんみたいね」

本当にあわてんぼうの赤ちゃん。

あたしとおばあちゃんがびょういんについたときには、もうパパにだっこされてた。

「ほうら、麻美。浩樹だよー」

あたしはふやけたようなおとつを見た。もしかしたらこの子、かわいくないんじゃないかしらん。頭がへんにふにゃっと長いし、ぎゅゅとつぶった目は、ねんどにつけたヘラのあとみたい。おまけにほったんで、ぶんぶくれ。友だちになんて言おうかって、そればかり心ばいしてた。